

中根小の自然

第 32 号 2009 年 2 月 20 日

冬の自然観察 ～冬芽

豆まきも終わり暦の上では春だし、異常に暑いくらいの日もありましたが、まだまだ寒さが続きますね。この寒い季節、コタツにもぐったりできない植物たちは、どうやって耐えているのでしょうか？今回は樹木の冬芽に注目してみます。

1. 冬芽：よろいに被われた芽と、毛皮をまとった小さな葉の芽

木の一年は冬芽が芽吹くところからスタートしますね。冬芽にはその後の茎や葉、花などの赤ちゃんがギュッと縮まって入っています。その大切な冬芽を寒さや乾燥から守るために、どのような工夫がみられるでしょう？

①よろいに被われた芽(鱗芽)：うろこのような小さな葉りんがが重なり合って、その中身を守ります。



(あ)



(い)



(う)



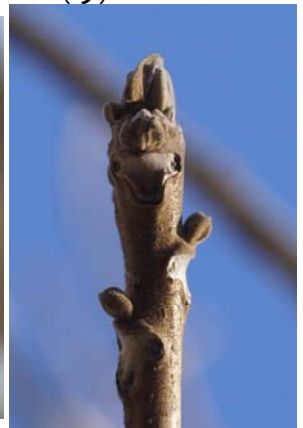
(え)



(お)



(か)

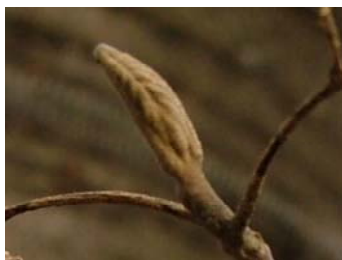


(き)



(く)

2/18 に校庭や近くの鹿嶋神社、牛久自然観察の森でとった写真から紹介します。どれが何の芽か当ててみましょう。なお、(き)の芽の下の動物の顔のように見えるのは、葉のついていたあとです。また、(く)の上側の丸い芽は花になる芽、下側の細長い芽は茎や葉になる芽です。



(こ)

←(け)

(答は次号)

②毛皮をまとった小さな葉らのままの芽(裸芽)：文字通り、裸の芽。前の年の最後の葉が成長を止め、そのまま毛に被われて中身を守ります。

さて、いくつ分かったでしょう。名前は次の中から選びましょう。 [理科支援員 宮内]

ヤブツバキ、オニグルミ、クスノキ、タラノキ、サクラ(エドヒガン)、メタセコイア、ビワ、カキ、ムラサキシキブ、カヤ